

平成30年度 佐賀県立武雄高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標	
高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する	①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進 ②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現 ③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進 ④佐賀を誇りに思う教育やグローバル教育の推進による、地域や国際社会の発展に寄与できる人材の育成 ⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成 ⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進 ⑦教職員の指導力向上、機能的・効率的な学校運営による組織力の強化	達成度 A:ほぼ達成できた B:概ね達成できた C:やや不十分である D:不十分である

3 目標・評価						
①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）
特定課題	○中高一貫	併設中学校との連携を進める	・中高教師間の連携を深め、教育力を高める。 ・中高生徒間の交流を深め、一体感を持たせる。	・教科別に中高で互いの授業を参観し合い、授業研究会を実施する。 ・高校の教科担当者会議等に中学校職員にも参加してもらう。 ・中高生徒の各種行事・部活動での交流機会を設ける。 ・中高一貫教育の新たなグランドデザインの構築を中高共同で行う。	B	・11月にすべての教科で中高相互の授業参観と授業研究会を行い、中高6年間を通した指導の在り方について話し合った。 ・高校の教科担当者会議に中学校職員に参加してもらい、高校生になってからの様子を知ってもらう機会とした。 ・さまざまな行事を中高合同で行った。部活動もいくつかの部が中高合同で練習を行った。 ・グランドデザインについて中高一貫教育推進委員会や中高教科研究会で話し合った。

②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）
特定課題	○進路指導	中高一貫6期生としての自覚と進路第一希望の達成	・一人ひとりの生徒が適切な進路選択ができ、その進路実現のための支援を行う。 ・3年国立大学合格者150名以上、うち難関大学合格者30名以上、国立大学医学科複数名。	・1年次より教科担当者会議を計画的に行い、3年次の進路検討会へと繋げ、3年間を見通した指導を行う。 ・進路講演会、職員研修会等を行い、生徒の意識向上および職員の授業力向上を図る。 ・文理分け、コース分けのための情報提供を行い、指導・面談の充実を図る。 ・難関大学希望者への個別指導を、早い時期から実施する。 ・短大・専門学校・就職希望者には個別に対応する。	B	・教科担当者会議・進路検討会の資料は、より改善され、会議で活発に検討がなされた。特に、3年生の進路検討会では三者面談への良いアドバイスができた。 ・1・2年の教科担当者会議は、どうしても勤務時間外までかかってしまったが、熱心に検討してもらった。 ・今年度の国立大学現役合格者は131名と目標を下回ったが、定員に対する国立大学の合格率は例年レベルの結果ではあった。中期・後期の合格24名で、最後まで頑張った生徒が多かった。 ・難関大は九州大7名、大阪大3名、医学科0名と厳しい結果だった。 ・看護・医療系専門学校希望者は、面接・小論文指導を組織的にし、進路希望をほぼ達成できた。 ・公務員は自衛隊2名。
教育活動	●学力向上	教職員の指導力向上	・基礎的レベルから応用・発展レベルまで対応できる指導力を身につける。	・大学入試問題研究等の実施によって、より実践的な知識と技能を身につけ、日常の授業への応用を図ることにより、授業内容の改善に取り組む。 ・校外の入試研究会や教科の講習会等に積極的に参加し、入試問題や入試動向等の研究を行う。	B	・「難関大入試研究会」、「入試結果説明会」などに延べ82名が参加。研究会等への参加は減少。新入試に対しての情報収集には積極的に参加できた。 ・予備校主催の「教員対象セミナー」には、県の研修支援事業で4名が参加。福岡での開催が少なく、参加者は少なかった。 ・大学入試問題研究には、全職員が取り組み、その成果を提出。昨年度より早期に取り組み、その後の指導に活かされた。
		生徒の実力養成	・全国模試総合偏差値60以上を各学年110名以上にする。	・学習時間調査、進路希望調査の実施や、「学習と生活の記録」を活用し、生徒の日々の生活状況を把握し、指導に活かす。 ・職員研修の充実による教員の授業力向上を図る。 ・模擬試験を受けて教科担当者会議を実施し、結果の検証、見直し、設定をする。	B	・1月進研模試での偏差値60以上は、1年91名、2年79名と目標には届かなかった。また、3年11月進研では33名と、大きく及ばなかった。 ・「学習と生活の記録」を用いて、生徒の日頃の学習状況を把握し、指導に生かした。 ・毎学期学習時間調査を行った。1日平均で3学期は1年生149分、2年生147分とまだ少ない。3年生2学期は276分だった。
		「探究Ⅱ」の工夫と校外体験活動の奨励	・進路達成に資する各学年ごとの「探究Ⅱ」を計画・実行する。 ・年間50件以上の校外活動を紹介・募集し、のべ150人以上の活動体験者を出す。	・探究Ⅱ委員会または企画研修部会で、各学年の探究Ⅱにおける活動内容を検討し、必要な修正を行う。探究活動（進路研究、協働学習、ディベート、小論文指導等）を充実させる。 ・募集中の校外活動についてポスターや教室掲示で生徒に案内する。また、活動への参加目的が明確になるように参加報告書を書かせ、事前事後指導を行う。校外活動体験発表の場を設け、また文書による報告を行い、経験を共有させる。	B	・適宜「探究Ⅱ」の計画を行い、実行した。 ・クラスの掲示板や廊下の掲示板にポスター・チラシを掲示することで、50件を超える校外活動を紹介・募集した。 校外活動に積極的に参加しようとする生徒は昨年度よりも多く申し込みの件数が増加した。校外活動体験発表会の効果も大きいと考えられる。
						・入試について大きく変化しているので、各種説明会への積極的な参加を呼びかける。 ・外部英語検定としてGTECを受験する予定。GTECの指導の研究が必要 ・「教員対象セミナー」については、予算措置ができれば、参加者は増えると思われる。 ・超難関大志望生徒への指導方法を確立させたい。 ・大学入試問題研究への取り組み方、内容について更に改善したい。

③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT利活用教育に対する生徒の満足度を高める（肯定的評価90%以上）。	・電子黒板や学習用PCを全教科で活用し、効果的な授業実践を行う。	・電子黒板や学習用PCの授業における活用状況を調査する。 ・各教科で電子黒板や学習用PCを活用した研究授業を行い、より効果的な活用を検討し実践につなげる。 ・授業以外での学習用PCの活用を推進する。 ・自宅での課題状況を把握できるソフトも利用し学習用PCの利用を推進する。	A	・ICTの利活用についての生徒の満足度調査では、1年生95.0%、2年生94.9%、3年生97.0%の生徒が満足、もしくは、ほぼ満足という回答であった。 ・授業以外でも、家庭学習や部活動においても学習用PCが多く活用されていた。
	○主体的で効果的な学習活動のための「アクティブラーニング」の積極的導入	授業への導入を促進し、かつ、その検証と研究をおこなう。	・個人、グループで考えをまとめさせ、自分の考え方や行動についても考えさせるなどの活動を授業に取り入れる。	・各教科でアクティブラーニングを取り入れた授業研究会を行う。 ・中高合同授業研究会でアクティブラーニングを取り入れた授業の研究を行う。 ・1、2年生の探究においてアクティブラーニングを取り入れた活動を行う。	B	・教育実習期間に合わせてアクティブラーニングを取り入れた授業を公開するように呼び掛けた。 ・中高合同授業研究会でアクティブラーニングを取り入れた授業について話し合った。 ・1、2年生の探究においてテーマ別研究やディベート学習でアクティブラーニングを行った。
学校運営	○教育情報支援システム（SEIネット）と学習用PC導入への対応	教育情報支援システム（SEIネット）と学習用PCの効果的な活用方法を工夫する。	・SEI-Netの効果的な活用方法を確立する。	・県教育情報課やSEI-Netヘルプデスクとの連絡を密にし、出席統計・成績処理については導入の方向で進めていく。 ・SEI-Net活用のための職員研修を実施する。	B	・今年度は、成績処理、出席管理、各種アンケートでSEI-Netを活用することができた。また、SEI-Netのアンケート機能については、多くの先生方に活用していただいている。 ・ヘルプデスクと連携を図りながら、先生方のSEI-Netに関する相談等に対応することができた。

④佐賀を誇りに思う教育やグローバル教育の推進による、地域や国際社会の発展に寄与できる人材の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）
教育活動	○佐賀を誇りに思う教育の実践	佐賀の歴史や伝統、産業や技術を尊重しつつ、次世代につながる魅力あるふるさと作りに貢献できる教育の実践	・地域の文化への関心を高める。	・講演会を実施し、佐賀の魅力を再確認することで、他の様々な文化への興味や関心を高める。 ・朝の自習時間を利用し、1年次に書籍「佐賀語り」をとおして佐賀のことを学ぶことで、「ふるさと佐賀」に対して誇りと自信につながる見識を深める。 ・2年次は昨年度に引き続き、書籍「佐賀語り」をとおして佐賀のことを学び、生徒各自で県のPR・ポスター等をデジタルデータで作成し、優秀作品を文化祭で展示する。	A	今年度も武雄市長に講演をしていただき、武雄市が取り組んでいることや地域の方が取り組まれたことを理解し、地域発展に貢献する意識の向上を図ることができた。また「佐賀語り」を利用することで、日頃から「ふるさと佐賀」に対して見識を深めることができた。さらに、まちづくり参画事業に多くの生徒が参加し、高校生としてできることを直に学ぶことができた。
	○更なるグローバル教育の充実	グローバルな視野に立ち、世界で活躍できる人材の育成を目指した教育活動の実践	・生徒のグローバルな視野を広げるような授業や教育活動を実践する。 ・社会課題に対する関心を喚起し、コミュニケーション力や問題解決力を育む教育を実践する。	・国際理解教育講演会を始めとする諸活動の計画、実施を通して、本校独自のグローバル人材像やグローバル教育について職員のコンセンサスを図る。また、それぞれの教員がグローバルな視野に立った授業を心がける。 ・佐賀大学留学生等との国際交流や、中高合同の海外研修などへの積極的な参加を促し、生徒が国際理解を深めることのできる機会を多く提供する。「探究Ⅱ」や日頃の授業を通して自分で問題解決を図る姿勢を身につけさせる。	B	・学問学習会の講師の中に外国人の先生を入れ、海外からの視点を取り入れた話をしてもらった。 ・オーストラリア研修を新たに始めたり、佐賀大学留学生との国際交流プログラムや韓国からの学校訪問受け入れなどを行ったりして、生徒たちのグローバルな視野を広げる機会を提供した。 ・高校生平和大使の活動に多数の生徒が協力した。 ・カナダからの留学生が7月まで在籍していたことで生徒の国際交流が日常的に行っていた。

⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	規範意識の向上	・規則の遵守、防犯安全に対する意識を高める。 ・生徒指導措置件数0、加害としての交通事故件数0に努める。	・日々のホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等についての啓蒙を行う。 ・毎月、定期的に服装頭髪検査を実施し、武雄高校生としてふさわしい身なりを意識づける。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。	B	・集会等を通して、情報モラル、交通安全を中心に話をして、啓蒙することができた。 ・自転車施錠指導も随時行ったが、不施錠ゼロの日が少なかった。 ・生徒指導措置件数は3件だった。 ・交通事故発生件数は5件で、自転車利用者が2件、保護者の送迎中が3件であった。 ・ネットパトロールによる指導は11件であった。	・情報モラル教育について特にSNSの利用について幅広く啓蒙活動に取り組んでいきたい。 ・自転車施錠の習慣化を、日々の指導を通して図りたい。
		部活動の活性化	・部活動を通して、体力・忍耐力・協調性を養い、連帯感を身につける	・他の校務分掌や生徒会等と連携しながら、生徒の能力・適正、興味・関心等に応じた活動を行う。また、家庭や地域社会の教育力や支援をうけながら積極的に活動を展開していく。	B	・部活動では、例年と同じように弓道部、少林寺拳法部、バドミントン部などが県大会上位入賞果たした。また今年度はサッカー部と女子バスケットボール部が上位入賞し、九州大会出場を果たした。 ・生徒会執行部の活動において、生徒の主体性が高まった。	・生徒会の各委員会間や各部活動間において、リーダー会議などを実施することにより、連携する活動を活発にしていきたい。
	●心の教育	思いやりの心の育成	・ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりの心を育てる。	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定して考えさせる。 ・校内外におけるボランティア活動やイベント等の個々の活動の意義を明確にし、また関連するさまざまな情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。 ・武陵祭でのクラス企画などグループ活動を通して、助け合いの心を育む。	B	・人権問題などを通して、他者への思いやりの心を培うことができた。 ・学校行事やHR活動・探究活動等を通して、多くのグループ活動を行い、他者と協力して活動をやり遂げることができた。 ・ボランティア活動や校外活動に積極的に参加し、社会へ貢献する機会を直に経験することができた。	・様々な研修や活動を実践しているが、しっかりと振り返りを行い、生徒自身が必要なことを見出し、社会に貢献できるように意識向上につなげる。 ・ポートフォリオを作ることで、生徒自身が活動してきたことを総合的に踏まえ、自分のすべきことを常に確認できるようにしたい。
		困り感のある生徒への対応	・カウンセラー利用の呼びかけや保健室利用の生徒の把握を行い、早期の対応を行う。	・スクールカウンセリングの活用や教育相談連絡会、特別支援委員会を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができるように方策を図る。 ・シェアリングシートを活用し、生徒の休み状況を共有する。	B	・カウンセリングを通して、困り感のある生徒の実態把握を早期に行うとともに、カウンセリング記録を関係職員間で共有することで、個別の対応へつなげることができた。 ・今年度から始めてまだ定着していないところがある。	・年度初めや学校祭の時期に困り感を持つ生徒が多くみられたので、その時期に効果的にカウンセリングを行うことができるような日程調整を行う必要がある。 ・引き続き気になる生徒について担任に声をかけをし、シートの入力方法を改善するなどの工夫をして、活用してもらうようにする。
	●いじめ問題への対応	いじめのない学校づくり	・早期発見に努めるとともに、認知事案に対しては早期解決に努める。	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団との一体感を持てる取り組みを工夫することでいじめのおこらない雰囲気醸成する。 ・「いじめはどの学級でも、どの生徒にも起こり得る」という視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等より、いじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織として迅速に対応する。 ・心の教育をとおして思いやりの心を育成する。	B	・いじめに係る認知・認知件数は、認知が4件で、そのうち認知が2件であった。内容はSNSを用いた誹謗中傷、友人間のもつれなどであった。 ・本人や周囲からの聞き取りをはじめ担任、学年主任などと連携した迅速な対応により、問題の早期解決につなげることができた。 ・スクールカウンセラーの先生に間に入っていただくことで、柔軟に対応できた。	・担任をはじめ、教職員の普段からの目配りを心掛け、アンケートや日々の「学習と生活の記録」を活用し、いじめの早期発見及び解決に努める。
		●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・校内環境美化に努める。 ・健康診断を有効に活用し、健康な体づくりに努める。	・学校全体でゴミゼロ運動に取り組む。 ・健康診断後の治療勧告書や、保健だよりを通じて、健康な体づくりに努める。 ・部活動をととして心身の健全な発達を促す。	B	・武陵会館の自動販売機横に設置されているゴミ箱に、販売されている以外のゴミを入れているのが目立った。 ・健康診断後の治療勧告や、保健だよりによる健康な体づくりの啓蒙活動もできた。
	学校保健教育の推進		・早期対応に努め、心身の健康相談活動を強化する。	・内科的訴えに対応するため、相談時間を確保する。教育相談係を中心にスクールカウンセラーを活用する。 ・「保健だより」を通して、時機に応じた内容の記事を掲載し、啓蒙活動を行う。	A	・保健室での応急措置件数は1月末時点で1255件であった。昨年度よりも少し減少している。 ・スクールカウンセラー面談を勧奨し、担任の先生方の利用もあった。スクールカウンセラーに学年の教育相談連絡会や、学校保健委員会に出席していただき、アドバイスを受けた。	・担任や学年との連携を密にし、また、専門機関との連携や、学校全体で組織的な対応ができるよう、今後も生徒とともに先生方に寄り添ったサポート体制を心がけていきたい。
	○図書館教育	望ましい読書習慣の育成	・生徒の読書量と質を向上させ、一人あたりの年間貸出冊数4.0冊以上、貸出総数3,000冊以上を目指す。	・朝の読書、LHRでの一斉読書、学級文庫の活用等を通して積極的な学校図書館の利用を推進する。 ・「図書館だより」を通して、新着図書、お薦めの本の紹介等の情報発信を積極的に行う。 ・生徒たちの教養や知識の水準を上げるような本の提供を行う。	A	・貸出総数は6,293冊、一人当たりの貸出冊数は8.79冊であった（H31 1月末現在）。朝の読書、LHRでの読書会、学級文庫の活用等が功を奏し、目標を大幅に超える成果が出せた。これまで利用が少なかった3年生の貸し出しが多かったことは特筆に値する。今後は冊数とともに読書の質もレベルを上げていけるよう、いっそう読書活動の推進に努めていきたい。 ・「図書館だより」を10回発行して情報を周知した。 ・多数の職員の意見を参考にしながら、良質な本を選書できた。	・図書館利用をより増やすため、教科や学年の意向も考慮しつつ朝の読書の時間を確保し、クラス読書会や学級文庫の設置も継続したい。今年度同様、生徒の身近に本があるような環境作りに努めたい。 ・「図書館だより」はできるだけ多く発行し、今年度同様分掌全員で作成に関わり、かつ図書委員にも記事を書かせたい。 ・今後も職員の協力を得ながら、幅広い分野の本を選書したい。

⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校運営方針	本年度の重点目標の周知	・重点目標を知っている保護者の割合を80％以上にする。	・PTA総会において、学校評価計画を示し、本年度の重点目標について十分な説明を加えることで周知を図る。また、学年保護者会・学年通信・広報紙及び学校のホームページを通して、随時周知を図る。 ・生徒にも重点目標をしっかりと周知し、学校全体で目標達成に向けて取り組む。	B	・知っている、ある程度知っていると答えた保護者が約56.4％で、十分に周知できなかった。PTA総会や学年保護者会、ホームページでの広報活動が必要であった。	・PTA総会など機会あるときに、重点目標を提示し保護者への周知を図る。
	○開かれた学校づくり	PTA総会や学年保護者会の充実	・PTA総会への保護者の出席率が65％以上にする。	・ホームページを利用して事前の広報周知を徹底する。 ・総会の進行を効率化し、学年・担任との懸念が十分確保できるよう工夫する。 ・当日参加できなかった保護者のために、後日報告会を設定し、総会での内容を報告する。	B	・総会、授業参観、学年保護者会を含めて59％の出席率で概ね達成できた。また、総会では活発な意見交換もできている。 ・総会時以外の学年保護者会の出席も良好である。 ・大学視察や豚汁会にも多くの保護者に参加していただいた。	・今年度は総会の時間を短縮したこともあり、総会自体の出席は例年より良好であった。来年度も長時間の総会にならないよう工夫する。また、当日不参加者のために行った説明会も来年度も継続して行う。学年保護者会の内容を案内プリントに掲載する。
		中学生体験入学の充実	・体験入学の出席者数を募集定員の200％以上にする。	・早めに計画を立て、中学校に案内を出す。 ・ホームページを利用して事前の広報周知を徹底する。 ・内容を工夫し、中学生の興味関心を高める。	A	・他校との日程調整もでき、参加者217名と武雄高校を知っていただく機会を設けることができ、目標をほぼ達成することができた。 ・内容についても、生徒会と協力し、武雄高校の魅力を伝えることができ、体験授業も好評であった。 ・部活動見学では、一部活動していない部の案内ができておらず、直前の確認が必要であった。	・自由見学の際、部活動見学見学の時間がもう少し必要だったように感じた。近年猛暑のため、体育館での時間を短縮し、自由見学の時間を確保する。
		情報発信の推進	・広報誌「武雄高校だより」を年12回以上発行する。	・近隣の中学3年生全員の他、教育事務所や教育委員会にも配付する。 ・ホームページを利用して広報を徹底する。 ・在校生だけでなく中学生の興味も引くよう、内容を工夫する。 ・プレスリリースを積極的にを行い、対外的な情宣活動に取り組む。	B	・広報誌は12回発行した。 ・「御船の風」として、広報誌・大会戦績等をまとめた資料を作成し、来校者への説明資料として配布できた。 ・武雄市のまちづくり参画事業や「佐賀を誇りに思う講演会」なども広報できた。	・プレスリリースを積極的に行うとともに、体験入学・高校説明会で学校の様子をよりわかりやすい形で情報提供できるよう工夫が必要である。
			・ホームページの更新を頻繁に行う。 ・スクールNewsを活用する。	・生徒の活動状況だけでなく、保護者向けの文書などもアップする。 ・緊急情報等はWeb配信・メール配信も活用する。	B	・イベントカレンダーは定期的に更新した。保護者の関心も高かった。 ・学校からのお知らせも定期的に更新した。修学旅行中はアクセスが700近くあった日もあった。 ・緊急情報等はweb配信・メール配信を活用した。	・ホームページの更新については、情報発信に努めるようにする。ただ、担当の過度の負担にならないように、読み手が望む情報を吟味し、その部分に努力を集中させていく必要がある。 ・緊急情報については今年度同様スクールニュースを利用する。
	教育活動	○地域との連携	地域との協働活動の推進	・地域の魅力を理解し、地域の将来を考える力をはぐくむ。	・武雄市との連携を深め、地域のリアルな課題をもとに現状を探索。また、地域の課題解決に向け魅力あるプランを創造的に組み立てることができるように総合的な学習の時間等を利用する。 ・武雄市のまちづくり参画事業などの地域との協同活動の報告会を行い関心を高める。	A	・武雄市との連携を深め、各グループごとに計画したまちづくりについて実践し、武雄市役所で発表して、地域の課題解決に向け、魅力ある将来のプランを創造的に組み立てることができた。 ・武雄市が企画した研修会等を生徒に周知し、生徒は積極的に参加することができた。

⑦教職員の指導力向上、機能的・効率的な学校運営による組織力の強化							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	学問への興味を喚起させ、学力をつける授業の実践	・教科の専門性を高め、奥行きのある授業の実践に努める。 ・指導方法の改善に取り組み、わかりやすい授業の実践に努める。	・県教育委員会主催の「大学受験指導力向上研修会」や「民間教育機関（予備校）への教員派遣事業」などへの積極的な参加を促し、個々の教師の指導力向上を図る。 ・各教科において、電子黒板や学習用PCの効果的な活用をとおして生徒の興味関心を引き出し協働学習やアクティブラーニングにつながる学習活動の工夫を図る。 ・研究授業の実施や参観の機会を増やし、指導方法の改善に役立てる。 ・生徒による授業評価の結果をそれぞれの授業改善に役立てる。	B	・延べ82名の職員が、民間教育機関の指導力向上研修会や学校訪問、教師派遣事業に参加し、教科指導力、大学受験指導力の向上に励んだ。 ・特に電子黒板の利用については利用数と指導の改善が見られ、ICT利活用の主要な部分を占めており、アクティブラーニングや生徒の主体的学習活動との連動も見られているが、学習用PCの活用にはまだ多くの課題を抱えている。 ・研究授業の実施や参観の機会を設けているが、特に中高一貫教育のための授業研究にはまだ改善の余地が残っている。 ・生徒による授業評価の結果を職員に周知し、授業改善に役立てている。	・中高一貫教育の新グランドデザインに沿って、 ①教科指導力向上、 ②ICT利活用の推進、 ③主体的学習活動の推進、 ④思考力、表現力、判断力の新学力観に基づく教科横断的指導方法の構築の各分野の研究や改善計画を有機的に連動させる。そのために、それぞれの研修や授業参観、指導計画作成において、上記の3項目を必ず取り入れて検証や改善を行うように周知し、中高一貫教育研究会や教科担当者会議で必ず議題として取り上げて改善を進めていく。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	機能的・効率的な学校運営による組織力の強化	・機能的で効率化を目指した職場環境の整備に努める。 ・具体的な時間的、量的負担の軽減を全員で取り組む。	・週休日の部活動の練習時間の削減、休業日の設定を確実なものにする。顧問の交代への指導。 ・出張業務の精選、会議時間の短縮化。校内メールやメッセージ機能での情報の共有。 ・閉庁日の設定や校内LANの稼働時間の短縮。 ・分掌組織の改編。業務分担内容の見直し。	B	・運動部活動の在り方に関して、体制整備と休業日など具体的な方針を設定し、学校ホームページにも掲載した。 ・出張業務の精選、効率的な資料提示により会議の短縮化も図れた。 ・校内LANの稼働時間については、適宜短縮を行い業務改善を図った。 ・分掌組織については一部改編を実施したが、業務の分担がはっきりとしない部分もあった。	・文化部活動の在り方についても、方針を設定し学校全体として効果的な活動を推進させる。 ・提示資料をさらに精選し、効率的な会議運営を図る。 ・次年度も校内LANの稼働時間の短縮や閉庁日の設定、部活動休業日の推進などによる効率の良い働き方を検討する。
	○教育環境の整備	施設・設備の充実、効率的な予算の配置・執行	・安全な学校施設、学業に専念できる学校環境づくりに努める。 ・適正な予算の執行に努める。	・定期的に点検を行い、該当箇所の早期発見に努め対応にあたる。また、情報共有のため職員間での連絡を密にする。 ・本校の長年の懸案事項であった「南体育館全面改築」に向けて、早期実現ための要望や協議等を関係機関に働きかけていきたい。 ・厳しい予算配分の中、各事業内容を再点検し有効な予算の執行に努めたい。	B	・学校施設の整備において定期点検を行い、通路の補修を行うなど、生徒の安全確保につなげることができた。 ・学校管理運営費予算が厳しい現状のなか、効率的な予算の執行に心がけた。しかし、光熱水費に関しては、夏季の猛暑により、エアコンの使用は抑制を余儀なくされた。 ・南体育館の改築については、機会あるたびに教育総務課学校施設担当と現状を話している。引き続き、要望を重ねて早期に実現できるよう努力していきたい。	・来年度はさらに予算が厳しくなると予測される。いまだに校舎内の電気の消し忘れ等が頻繁に見受けられるが、節電・節約のさらなる意識向上を職員・生徒に働きかけ、効率的な予算執行に努めていきたい。 ・校舎改築後、20年以上が経過し、様々な箇所で修繕等が必要な箇所が増えてきているため、定期的な校内巡視を行いながら、早めの対応を心がけていきたい。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組							
「進路第一希望の達成」、「指導力向上」、「探究活動」、「佐賀を誇りに思う教育の実践」、「生徒生活指導」、「部活動」、「校内美化」、「保健教育」、「図書館教育」、「PTA活動」、等においては、達成度としてはおおむね目標通りの活動がなされてきた。「グローバル教育」、「地域との連携」、「校内美化」等については、生徒の自発的・積極的な活動参加により、予想以上の成果をもたらし、学校の活性化に大きく貢献している。特に、地域との連携では武雄市の協力のもと、短期間での実践活動・報告会を通して様々な力を培うことができ、外部評価も得られた。今後も生徒と教師の相互理解と協働活動によって、さらに活動の枠を広げていきたい。一方、「ICT利活用における学習用PCの利活用推進」、「中高一貫教育のさらなる推進」、「広報活動の積極的展開」については問題解決の方策も具体化できているので、新年度には早々に反省を生かして展開していかなければならない。 武雄青陵中学校と協働して6年間の教育活動を再構築したグランドデザインに基づいて、教育目標を実現するように職員一丸となってその実践に努めたい。 今年度も、多様な悩みや困り感を抱えた生徒が増加している。定期的な開催される教育相談連絡会は、生徒対応において統一した理解と指導方針が共有され、一定の効果があつた。また、スクールカウンセラーとの連携を積極的に行うことで問題解決の糸口を見出す例が多数あつた。今後も福祉分野・医療分野や児童相談関係、NPO法人等を含めた外部との連携を効果的に活用し、さまざまな問題に対して対処していきたい。 学校教育目標の周知を含めた広報活動については、PTA総会や学年保護者会等集会の場だけでなく、学校ホームページやスクールニュースなどICT機器を多用することで、保護者への周知と外部への広報活動を積極的に展開し、より開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。							

●は共通評価項目、○は独自評価項目